

---

## 整形外科

---

<指導医> ※導医講習会未修

鎌田 孝一※、吉岡 太郎、木田 将量【指導責任者】

<期間> 自由選択 4 週～12 週(1-3 ブロック)

<指導体制>

研修診療責任者(指導医)のもと、指導医とともに患者の診療にあたる。

<一般目標(GIO : General Instructive Objectives)>

研修医は、質の高い医療を行い信頼される臨床医となるために、運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得し、適切な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。

<到達・経験目標(SBOs : Specific Behavioral Objectives)>

- ① 多発外傷における重要臓器損傷その症状を述べることができる。
- ② 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
- ③ 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができ、診断できる。
- ④ 脊髄損傷の症状を述べることができる。
- ⑤ 多発外傷の重症度を判断できる。
- ⑥ 多発外傷において優先検査順位を判断できる。
- ⑦ 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
- ⑧ 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。
- ⑨ 骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。
- ⑩ 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
- ⑪ 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変形性疾患、骨粗鬆症、腫瘍の X 線、MRI、造影像の解釈ができる。
- ⑫ 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。
- ⑬ 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
- ⑭ 神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。
- ⑮ 関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。
- ⑯ 理学療法処方の理解ができる。
- ⑰ 後療法的重要性を理解し適切に処方できる。
- ⑱ 1本杖、コルセット処方が適切にできる。
- ⑲ 病歴聴取に際して患者の社会的背景や QOL について配慮できる。

- ⑳ リハビリテーション・在宅医療・社会復帰などの諸問題を他の専門家、コメディカル、社会福祉士と検討できる。

< 方略 (LS : Learning Strategies) >

- ① 指導医の下に救急外来でのプライマリケアおよび本館 1 階 ICU 病棟入院患者の担当医となり、その管理を修得する指導医とともに、受け持ち患者の手術の助手を行う。
- ② 指導医のもと、牽引療法、ギプス固定法、関節注射などの整形外科治療を行う。
- ③ 指導医のもと、外来診療を行う。
- ④ 指導医のもと、神経ブロック、硬膜外ブロックを行う。

< 評価 (Ev : Evaluation) >

- ① 研修医による自己評価  
経験すべき症例を経験した際は、研修医手帳に記入する。  
各科研修ローテーション終了時にインターネットを用いた評価システムを入力することで評価する。
- ② 指導医による研修医の評価  
各科研修終了時に指導医がインターネットを用いた評価システムの入力と、定められた評価表を用いて評価する。
- ③ 指導医以外の医療スタッフによる360度評価を実施する。
- ④ 上記に加え、研修医講義やカンファレンス (CPC や死亡症例カンファレンスなど)、勉強会、抄読会など義務付けられた教育プログラムの参加状況を評価に加える。